

# 中上紀さんがトークや朗読

## 最新作 出版記念 県世界遺産センター特別企画

和歌山県世界遺産センター（田辺市本宮行政局内）は2日、特別企画として作家の中上紀さんを迎え、最新作「月花の旅人」の出版を記念してトーク&サイン会を開いた。

中上さんは、「月花の旅人」の朗読に入る前に、徐福や熊野の伝承を交えながら同著の創作にまつわる話をした。この中で、父親の中上健次の脚本による映画「火祭り」で熊野市二木島町に住む主人公が新宮市の「お灯祭り」に参加することを取り上げ、昔は歩くと何日もかかったが、海を渡っていったら、ずいぶん早く行けたのではないかとこう考えから、「海路によって」さながらワープするよな、（それが）この



最新作「月花の旅人」や熊野への想いについて語る



トークや朗読に耳を傾ける来場者

世とあの世にも変換されるような」思いにとられたという。

徐福上陸の伝説は、この地方では新宮市と熊野市波田須町にある。また神武天皇渡来の伝説も新宮市や二木島町に伝わっている。また徐福、神武天皇も大船団で来ている暴風雨に遭い、ばらばらに上陸しているという共通項があり、そこに小説的ロマンを感じたという。

中上さんは、「熊野詣（もうで）は、再生の旅、蘇（よみがえ）りであり、これは不老不死につながるのでは

ないか。不老不死は薬ではなくて熊野そのもの、土地への熱い思いではなかったか」と語った。

最新作「月花の旅人」は徐福を軸とした物語だが、徐福そのものは出てこない。女性が主人公であり、幸福は遠くにあるのではなく、近くにあるということに気付いていくというストーリーという。中上さんは、トークのあと同著の一部を朗読。参加した人は、徐福の船が不老不死の薬を求め蓬萊山めぐりして出港するあたりからの朗読に耳を傾けた。